



岐阜大学機関リポジトリ

Gifu University Institutional Repository

Title	ピアノ初心者がつまずきやすい技術的な問題とその傾向
Author(s)	本間, 晶子; 松永, 洋介
Citation	[岐阜大学教育学部研究報告. 人文科学] vol.[67] no.[1] p.[53]-[62]
Issue Date	2018
Rights	
Version	奈良教育大学教育学部非常勤 / 岐阜大学教育学部音楽教育講座
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12099/77316

この資料の著作権は、各資料の著者・学協会・出版社等に帰属します。

ピアノ初心者がつまづきやすい技術的な問題とその傾向

Technical problems and trends for piano beginners who can easily stumble

本間 晶子¹ ・ 松永 洋介²

HONMA, Akiko. MATSUNAGA Yousuke

1. 問題の所在と研究の目的

小学校教員養成課程を持つ大学では、専門分野の科目として教科専門科目と教職専門科目の履修が教育職員免許法によって定められている。その中で、教科専門科目は、学校教育法施行規則に定められた小学校の教科9科目について科目ごとに開講されている。ただし、その履修については全教科履修を求める大学と、9教科の中から選択履修する大学とに分かれている。

教科専門科目「音楽」（以下「音楽」と記す）の場合、ほとんどの大学でピアノ実技が行われている。大学に入学するまで全くピアノ経験のない学生から、幼少よりピアノ学習の経験を持つ学生まで個人差がある中で大人数の学生が一斉に授業を受けることになる。しかし授業内容については全国一律に行われているわけではない。

その主な理由は3つある。一つは、学生一人当たりにかかる時間に差があることである。「音楽」は基本的に個人レッスンの形態をとることが多い。そのため、授業をする大学側では、ピアノ専任教員だけでは手が足りず、音楽講座の教員を総動員したり、非常勤講師を雇用したりして対応しているが、大学の入学定員と対応する教員数とは大学によってさまざまであり、学生一人当たりの授業時間は5分から15分とかなりの差がある。第二に使用する教材がまちまちであることである。ピアノの入門として比較的よく使用されるのは『バイエル』またはこれをベースにした曲集であるが、中にはギロックの曲集を使用したり、バッハの『二声のインベンション』を用いたりする教師もいる。さらに各大学が独自に編纂した教材曲集を用いる大学もある。第三に、授業期間が大学によって差があることである。ある大学では1年生から4年生まで、前期後期を通して「音楽」を必修としていた。この大学の場合は幼稚園教諭・保育士養成課程を持つ私立大学であったため、可能であったといえる。一般的には通年で開講する大学と、前期または後期の半期で開講する大学とがある。しかし、近年のカリキュラム改訂により、通年開講の大学も半期開講に移行しつつある。

このような状況で、小学校の音楽授業で通用するようなピアノ実技を身に付けることが求められているのである。また、教員採用試験にピアノ実技を課す県もあり、試験対策としてもピアノ実技は学生からのニーズがあるといえる。

ところで「音楽」におけるピアノの指導には大きく2つの方法がみられる。一つは『バイエル』などのピアノ初心者用の教則本を用いる方法である。もう一つは小学校学習指導要領に示された「歌唱共通教材」を弾き歌いすることである。いずれにせよ、少なくとも小学校教員採用試験で課されるピアノ実技に対応できるだけの力をつけることが求められる。

今回のテーマに付いての先行研究としては下記のものがある。

まず、三木康子は、ピアノ初心者の教材として『バイエル教則本』を取り上げ、「読譜・打鍵・レガート・スタッカート・その他の奏法」という観点から、106曲各曲に見られる奏法の指導とその発展の仕方を分析

¹ 奈良教育大学教育学部非常勤講師

² 岐阜大学教育学部音楽教育講座

している³。次に、富田英也は幼児教育を目指す学生の音楽経験の状況を分析したうえで、音階・和音・アルペジオ等を弾く時の「運指」を考察している⁴。さらに、市橋佳明・安田万里子は、保育士を目指す学生のピアノ実技学習の実態をアンケート調査し、読譜力を高めることが、ピアノ実技の力を高めることにつながると主張している⁵。しかしこれらの研究は学生一人一人の実態を量的に分析したものではなく、実際に初心者に対する複数の楽曲の中から問題点を解明しようとした研究は管見の限り見あたらなかった。なお、田中慈子は保育者・教員を目指すピアノ初心者のつまずきを、補講の実践報告を通して明らかにしようとしているが、具体例はバイエルの104番であり、楽曲分析を有効な指導法としたもので、導入初期の教材とは言えない⁶。

筆者らはすでにピアノ初心者の運指上の問題について、左手中指の動きに着目した研究を行った⁷。しかし左手中指以外にも、初心者が演奏するときにつまづく部分はさまざまである。そこで今回は『バイエル』とピアノ弾き歌いの2通りの方法において、ピアノ初心者がどのようなところでつまづくのかを明らかにし、その解決策を示すことを目的とする。

2 研究の方法

「音楽」の授業において『バイエル』を教材にしている大学と、小学校歌唱共通教材の弾き歌いを実施している大学の学生を対象としてピアノレッスンを行った。使用した教材は、A大学では『バイエル』をベースとした『大学ピアノ教本』⁸（教育芸術社）、B大学では『初等科音楽教育法』（音楽之友社）に所収されている小学校共通教材の伴奏譜から簡易伴奏譜を用いた。なお、簡易伴奏譜をそのまま使用したのは、「かたつむり」「かくれんぼ」「うさぎ」の3曲であり、あとの9曲はスリーコードで、こちらが提示したなるべく簡単なコードづけをした。学生の習熟度に応じて、ピアノを弾く際に余裕をもって使えることを第一にした。一方、余力のある学生には、簡易伴奏で弾くように促した。

いずれの方法においても、ピアノ学習経験のない学生を対象に、教材曲の中でつまづいた部分を抽出しその原因を分析した。

実施時期は2018年4月から7月にかけての4ヶ月間、15回の授業による。各大学における調査対象人数等は各項目で述べる。

3 弾き歌いの場合

(1) 実施方法

小学校教員養成課程の学生は、歌唱共通教材24曲をすべて弾き歌いできることが望ましく、B大学では、1年間でこれを達成すべく、カリキュラムが組まれている。今回は前期12曲を対象としている。しかし、鍵盤楽器初心者が、この目標を達成するには多大な困難を伴うのが現状である。そこで、初心者の学生が、半年という初期段階で、何につまづきやすいのかを調べ、分析考察した。

青年初心者の右手メロディーの運指指導については、数々の先行研究が見られる。三好優美子は、22名の

³ 三木康子 (2006) 『『バイエル教則本』にみられる奏法指導の特徴』『音楽教育実践ジャーナル』vol.3 no.2、日本音楽教育学会、pp.104-109

⁴ 富田英也 (1992) 「ピアノ学習上の問題点とその考察」『白鷗女子短大論集』,16(2),pp.1-26

⁵ 市橋佳明・安田万里子 (2017) 「ピアノ実技に関する実態分析と指導の方向性」中部学院大学・中部学院大学短期大学部『教育実践研究』第3巻第1号、pp.55-66

⁶ 田中慈子 (2017) 「保育者・教員養成校におけるピアノ初学者への指導法」『京都光華女子大学短期大学部研究紀要』55号、pp.201-209

⁷ 本間晶子・松永洋介 (2017) 「初心者ピアノ指導における左手運指の問題について」『教育学部研究報告 人文科学』(第66巻1号) pp.51-58 (共著)

⁸ 大学音楽教育研究グループ (2018) 『教職課程のための大学ピアノ教本 バイエルとツェルニーによる展開』教育芸術社

学生の運指傾向を詳細に調査した上で、「ミソラド」を(1-2-3-5)の指で弾くポジション意識を推奨する⁹。また、村木洋子(2013)は、小学校歌唱共通教材のうち9曲について、実際の学生の指使いを検討し、それぞれの学生にオーダーメイドの指使いが上達に早く結びつくとしている¹⁰。

本研究では、上達の効率を高めるため、運指に関しては、ポイントだけ予め指示した。対象としたクラスは、「音楽Ⅰ」を受講したAクラス18名(全員初心者)、Bクラス20名中12名の初心者である。1年生から3年生までの小学校歌唱共通教材をスリーコード伴奏で弾き歌いした。曲によっては、伴奏を分散和音にするなどして、応用力を身に付けることを計った。わらべ歌等の日本の旋律には、『初等科音楽教育法』(音楽之友社)の簡易伴奏を用いた。時間をかけて練習に取り組んでも、自力で解決できないケースを「つまづき」と認めた。

(2) 実践結果

小学校歌唱共通教材全24曲中対象としたのは、第1学年から第3学年までの12曲、すなわち「うみ」「かたつむり」「日のまる」「ひらいたひらいた」「かくれんぼ」「春がきた」「虫のこえ」「夕やけこやけ」「うさぎ」「茶つみ」「春の小川」「ふじ山」である。この中で、「うみ」「かたつむり」「日のまる」「かくれんぼ」「うさぎ」につまづきが確認された。

① つまづきの実態

a. 「うみ」

フレーズに関わりなく右手メロディーを3拍ずつ切ってしまう学生が見られた。(A1名・B4名)

指使いが適切でなく切れてしまうケースもあったが、正しい指使いでも、わざわざ3拍ずつメロディーを切って弾く学生が見られた。

b. 「かたつむり」

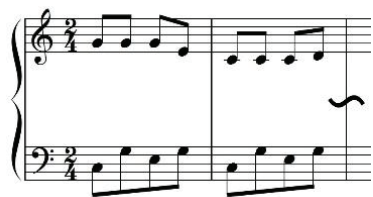
左手伴奏を4分音符のスリーコード弾きにした場合、つまづきはなかった。左手を8分音符の分散和音にした場合、右手の付点のリズムと左手の伴奏を正しく合わせるできない学生が10名見られた。

i) 右手と左手を全て8分音符にして同時に弾いてしまうケース。(譜例1)(B1名)

ii) 右手メロディーの付点8分音符を付点4分音符にとって、8分音符伴奏と合わせてしまうケース。(譜例2)(B1名)

iii) 左手の(c-g-e-g)の音型を保持できず、(c-g-c-g)になってしまうケース。(譜例3)(A1名)

iv) 片手ずつは正しく弾けても、両手合わずとチグハグになってしまうケース。(A5名・B2名)



譜例 1



譜例 2



譜例 3

c. 「日のまる」

右手メロディーが2拍ずつ切れてしまう学生が目立った。(A8名・B5名)

d. 「かくれんぼ」

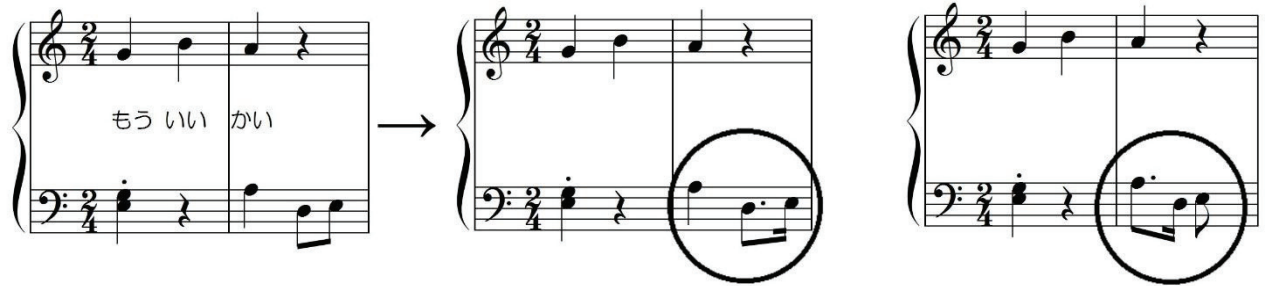
i) 右手メロディーの付点のリズムが曖昧な学生が6名見られた。

⁹ 三好優美子(2012)「子供の歌のピアノ演奏における運指指導の取り組み ～ミソラド=1235 ポジションの実践を通して～」『東京女子体育大学紀要』47号 pp.95-101

¹⁰ 村木洋子(2013)「歌唱共通教材(小学校)旋律の運指について～ピアノ入門者のための～」『山梨県立大学人間福祉学部紀要』vol.8 pp.49-56

[タッカ・タッカ]を[タッカ・タタ]と弾くケース (A1名・B2名) と[タッカ]が油断するとすべて[タタ]になるケース (A1名・B2名) があった。

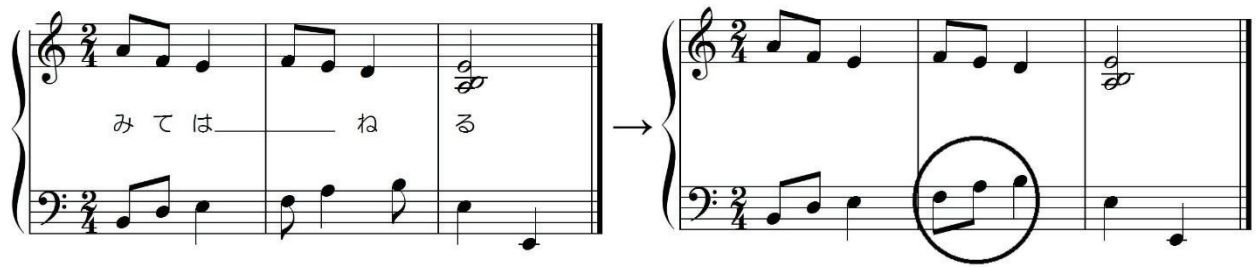
ii) 「もういいかい」の部分の左手のリズムを[タン・ウン・タン・タタ]と弾くべきところ、[タン・ウン・タン・タッカ]と弾いたり、[タン・ウン・タッカ・タン]と弾く学生が見られた。(譜例4) (A各1名)



譜例 4

e. 「うさぎ」

最後から2小節目の左手のシンコペーション[タタータ]を右手と同じリズム[タタ・タン]と弾いてしまう学生が見られた。(譜例5) (A9名・B1名)



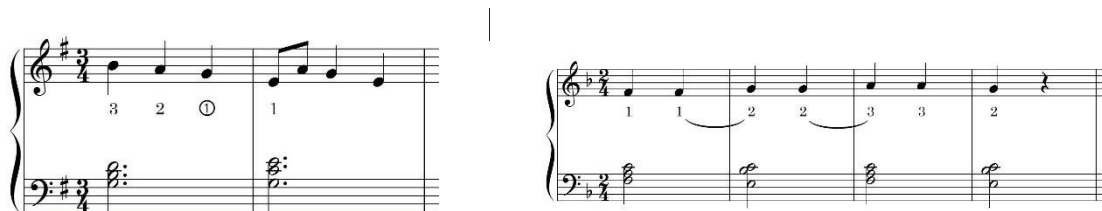
譜例 5

(3) つまずきの内容別考察

① 和音伴奏とメロディーのレガート

「うみ」と「日のまる」で見られたつまずきについて考察する。

「うみ」は3拍ずつ「日のまる」は2拍ずつメロディーが切れる。原因は左手の和音伴奏につられてのことと思われる。「うみ」の場合、不適切な指使いが一因とも考えられるが、その場合も[3 2 ① 1]の①の指を、左手と同時に短く切ってしまうケースが多く(譜例6)、これはやはり左手の影響と考えざるを得ない。また、正しい指使いで弾いているにもかかわらず3拍ずつ切ってしまう学生についても同様である。



譜例 6

譜例 7

「日のまる」の最初のフレーズは、指使いは順次進行であるにもかかわらずメロディーを切って弾いているケースが目立った。これは [1 1 2 2 3 3 2] が4分音符の羅列なので、[1~2] [2~3] をつなぐ意識が余程ないと左手和音を弾きなおす時、右手もつられて放してしまうのだと思われる(譜例7)。

注目すべき点は「うみ」において、全員初心者であるAクラスで1名しかこの事例がなかったことである。これは初心者であるがゆえ、耳から覚えたメロディーを歌として指に伝えているため、正しく演奏できたと思われる。メロディー意識の大切さを示す例と言える。

両曲とも、まず右手だけでメロディーを切らずに弾くことを確認し、そのうえで左手伴奏を加えるよう指導すると改善した。初心者の初期段階で、メロディーと伴奏のそれぞれ独立した動きに注目することは重要である。

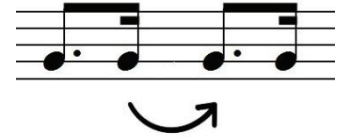
② 分散和音と付点リズムメロディー

「かたつむり」のつまづきについて考察する。

2. (1) ② i) ii) の学生は、何となく間違っていることには気づいていても、具体的にどう直せばよいのか解かっていたいなかった。丁寧にリズムを説明すると改善した。iii) の学生は、頭では解かっているが、指をコントロールできない。脱力を促し、ゆっくり根気強く練習して改善をみた。iv) の学生は、自力では非常に解決し難い状況であった。片手ずつ同じテンポで弾けて、同時に弾いて合うのが理想ではあるが、現状ではなかなか困難である。超スローテンポで[左右同時—左—右]で止まる練習をして、右手付点部分の左右のずらし方に慣れ、克服するのが有効であった。時間が許せば、左手だけ分散和音を弾き、右手はリズム打ちだけする予備練習も効果があると思われる。

③ 付点のリズム奏法

[タッカ]と[タタ]を手でリズム打ちし、違いを確認した。初めは違いを聴き取れなかった学生も見受けられたが、このリズム打ちでほぼ改善した。[タッカ]のリズムが3対1の長さである説明をして実践を試みたが、理論的には理解できても、実践にはつながりにくかった。最後まで難しい学生には、16分音符と後続の音符との距離感を意識させ、改善をみた。(譜例8)



譜例 8

④ リズムの読譜

「かくれんぼ」「うさぎ」の左手伴奏のリズムは、メロディーと違って、耳では覚えにくい。リズムの読譜力の不足がつまづきの原因と思われる。どちらの間違ひも、見過ごしても曲は成立するが、正しい読譜力の徹底を目指して時間を割きたい。

(4) つまづきの少なかった楽曲について

「ひらいたひらいた」「春が来た」「虫の声」「夕やけこやけ」「茶つみ」「春の小川」「ふじ山」においては、自力で脱出できぬ程のつまづきは認められなかった。さらに、「春がきた」では、Bクラス9名が分散和音を用いた簡易伴奏を、「ふじ山」ではBクラス7名が簡易伴奏の左手音型を用いて弾くことができた。

「茶つみ」以外はハ長調であること、また、知っていた曲があったことも、比較的スムーズにこなせた理由と考えられる。また、特異なリズムが無かった為、2. ①の学習の効果もあって、右手メロディーさえ弾ければ、左手の和音伴奏と合わすことはさほど困難ではなかったと思われる。この為、右手指使いのポイント指示は有効であったと思う。「虫の声」のe音を1の指で始めて[1 2 3 2 1 2 5 5]と弾くポジション意識や、「茶つみ」の同音指替えや、「夕やけこやけ」の指くぐり部分などを指示した。メロディーを切らずに弾く為、[1—1][5—5]のように同じ指で隣の音を弾くことを禁則とし、指くぐり、指またぎ、指替えの技術を指導すると、各学生は、楽譜通りでなくとも、各自の弾きやすい妥当な指使いを編み出してきた。これは、継続するピアノ実技に応用されてゆくと期待される。

4 『大学ピアノ教本』の場合

(1) 実施方法

A大学では「音楽」はI(前期)とII(後期)に分かれて実施している。「音楽I」では『大学ピアノ教本』を用いた基礎的なピアノ技能の習得、「音楽II」では小学校共通教材の弾き歌いを行っている。

今回実施したのはA 大学教育学部2年生250名のうち、筆者が担当するクラスの33名である。事前の学習状況アンケートにより、ピアノを全く学習したことのない学生19名を抽出し今回の分析対象とした。なお、ピアノではなく電子オルガンの学習歴を持つ学生が1名いたが、鍵盤楽器の学習歴を持つ者として今回は調査人数に含めなかった。授業は毎週行ったが、1コマ90分で33名を指導することは困難であるため、2クラスに分けた。そして筆者と筆者の監督下にあるTA(大学院生)が隔週で指導に当たった。その際各学生の達成状況カルテを作り、一人一人の到達状況や技術的な問題点等を申し送りできるようにした。授業の際、学生一人一人に「振り返りノート」(1番から56番までの楽譜をコピーした冊子)を持たせ、授業終了後、問題なく弾けた曲にはその番号に丸を付けさせ、弾いている途中に間違えたり弾けなかったりした箇所には朱を入れさせた。

『大学ピアノ教本』はバイエルをベースとし、これにツェルニーの『リトルピアニスト』『初歩者のためのレクリエーション』『ノイエツェルニー』¹¹などの曲集から数曲を抽出して編纂されたものである。

その構成は「ハ長調の和音(主和音、属七の和音)」「分散和音の伴奏形」「ハ長調の下属和音」と進み、次いで、ヘ長調、ト長調の主和音、属七の和音、伴奏形へと進むように配列され、右手で旋律を弾き、左手で伴奏形を演奏するには合理的なメソッドであると考えられる。全曲で94番まであり、これにそれまでの学習を生かすことのできる曲集(「ちょうちょう」「きらきら星」など8曲)と応用編とも呼べる「メヌエット(J.S.バッハ伝、ペツォルト)」や「エリーゼのために」など5曲が付され、合計107曲からなる。

「音楽I」の授業では56番まで到達することを単位認定のための実技試験受験資格とした(なお、実際には5名の学生が到達できなかったが、特別課題により受験できるようにした)。今回の実践では19名中5名が56番まで到達できなかったため、19名全員が到達できた47番までを分析の対象とした。

(2) 実践結果

15回の授業終了後、「振り返りノート」に記された達成状況を集計した(表1)。また、各曲についてどの部分でつまづいたのかを楽譜上にマークしていくようにした。

表1は『大学ピアノ教本』第1番から第47番までの履修状況である。縦軸は曲番、横軸は学生(以下No.で示す)である。

表中「1」は問題なく弾けた(通過した)ことを意味し、空白は何らかのつまづきがあったことを示している。例えばNo.1の学生は1番、2番でつまづいたが、3番以降は31番まで問題なく弾けたということを示している。この学生の場合47曲中問題なく弾けたのは41曲であった。通過数は41、通過率は0.87となる。一方、横に見ていくと、No.1について通過したのは19名中15名であった。したがって通過率は0.79となる。

以上のように集計した結果、56曲の中で学生がつまづきやすい曲と比較的容易である曲とが混在することが見えてきた。今回はその中でも学生にとって弾きにくかったと考えられる曲中、達成率が0.40以下の曲を分析対象とした。すなわち、8番(0.32)、42番(0.21)、43番(0.21)、45番(0.26)、47番(0.37)の5曲である。

(3) つまづきの実態

以下、各曲において学生はどのような部分でつまづいたのかを述べる。なお、曲番の後に、正答率を()内に示し、次いで速度記号、調性、拍子、小節数、出典の順に示した。

a.8番(0.32) (速度記号なし、ハ長調4/4拍子 16小節 ノイエツェルニーより)

この曲は1小節目の左手が四分音符を4拍弾くのに対して、右手の4拍目は休符となっている(譜例9)。そのため「休符なのに音を伸ばした」「(3拍目の)ドをもう1回弾いた」など、休符があることによる戸惑いがミスを生じさせている。この部分は6名の学生がつまづいている。また、この曲は(A—A'—B—A)の三部形式であり、Bの部分は(b—b')となっている。しかしb'の冒頭部がfであるのに対して、bの冒頭部はeであるため打鍵ミスをする学生もいた。また、最終15小節目において、左手は(f—g—f—g)、右手は(f—f—f—d)

¹¹ 『ノイエツェルニー』という曲集は、ツェルニーが作曲した練習曲目録ではなく、どの曲集を指すのか不明である。



となっているが、13、14小節の左手が（e-g-e-g）となっているため、これにつられてミスをするケースが見られた。

譜例 9

b.42 番(0.21) (4分音符=116 ト長調 4/4 拍子 16小節 バイエル 40 番より)

この曲は（A—A'—B—A）の三部形式であるが、左手が例えば（g-d-b-d）であったのが、（g-b-d-c）というように、41 番までのような定型的なアルペジオ形ではなく不規則な動きをするのが特徴である（譜例 10）。したがって右手では、パターンを間違えたり、左手との協応動作ができなかったりするミスがみられた。一方左手は、各小節の 4 拍目をミスタッチしたり、それまでに多く見られた（5—1—3—1）の指の動きになったりするミスがみられた。



譜例 10

c.43 番(0.21) (Comodo ハ長調 3/4 拍子 20 小節 バイエル 50 番より)

この曲は（A—A'—B—A—A'）の三部形式である。左手が 4 分音符で 3 拍分弾く間に右手は 8 分音符で 6 つ分弾いたり、左右が入れ替わったりする曲である（譜例 11）。特にパターンが変わる B の 2 小節目（通算 10 小節目）は、それまで左右のリズムが逆転するだけではなく、左手は 3 拍分を 4 分音符と 2 分音符というようにリズムも変化する。この部分で 7 名の学生がつまづいた。その内訳は、左手の 8 分音符のリズムが捉えにくかったのに対して、右手はそれまでの 8 分音符のリズムに影響されて（c-g-e-g-e-g）の音型になったり、このリズムを正しく弾けずに乱れたりするケースや、2 分音符を伸ばせないケースがあった。また、左右の指を合わせるタイミングをつかめない学生もいた。また、左手 12 小節目の音型を 10 小節目の音型と間違えるケースも 3 例あった。



譜例 11 (9~10 小節目)

d.45 番(0.26) (Allegretto ハ長調 3/4 拍子 24 小節 (9-16 小節はリピート) バイエル 57 番より)

この曲は（A—A'—B—A'）の三部形式であり、（B—A'）の部分が反復される。冒頭部分は、右手が 8 分音符 2 回に続いて 2 分音符を奏するのに対して、左手は 4 分音符 3 回である（譜例 12）。B の部分（9 小節目から 12 小節目）は左手と右手が入れ替わるだけでなく、右手はそれまでは単旋律であったのに対して、F-C-F-C と和音を奏する（譜例 13）。この曲は 4 分音符で 1 拍分弾く間に 8 分音符を弾かなくてはならないため、半拍ずらして弾くことに抵抗のある学生が多く 6 名の学生がこの部分で何らかのつまづきをしていた。また、4 小節目は右手が（a-g-e）と下降音型であるのに対して、左手は（c-e-g）と上行音型となっている。1 小節目から 3 小節目までは両手とも上行音型であったため、違うパターンの音型が出てくることによってつまづいている。その他、3 小節目左手は、それまで（c-e-g）であったのが、（c-f-a）と変化しているため、f は弾けても a と弾くべき部分を g と弾く学生もいた。



譜例 12



譜例 13

e.47 番(0.37) (ハ長調 3/8 拍子 48 小節 (1-8 小節、及び 9-24 小節はリピート) ノイエツェルニーより)

この曲は (A—B—A) の三部形式であり、最初の A が反復された後に B に移り、(B—A) の部分が反復される。各小節は、左手部分は 8 分音符 3 つを基本に構成されているが、基本的に (x-g-g) の形をとる (譜例 14)。x は最初は c で始まり、各小節の冒頭部分は、1 拍目だけを見ると (c-c-f-d-c-e-b-c) という進行になっている。この冒頭の音を読み間違える学生が 5 名いた。また、このとき運指は (5-5-2-4-5-3-5-4) となるのが一般的であるが、2 や 4 の運指を間違えるケースが 6 名いた。さらに 7 小節目と 23 小節目は左手と右手がそれぞれ上行音型と下降音型となり難しさを感じる学生もいた。

譜例 14



(3) つまずきの内容別考察

以上 5 曲についてつまずいた理由を分析すると次の 2 点が共通して見られた。

① 音型のパターン認識

今回取り上げた 5 曲に限ったことではないが、左手が C (c-e-g) や F (c-f-a) の分散和音を演奏し、途中で C から F や G7 に変化するなど一定のパターンによって演奏される曲が多い。この場合、分散和音が途中で変化するとき、それまでのパターンと違った音型になるため、運指も変えたりざるを得ずつまずく。

一方 43 番のように (c-d-c-d-c-d) (e-f-e-f-e-f) のように 2 度の反復をする曲もパターンと捉えることができる。この曲の場合には指の動きを (1-2-1-2-1-2)(3-4-3-4-3-4) と動かすことを理解することにより弾けるようになることが多い。しかし、10 小節目と 12 小節目は右手と左手の動きが入れ替わるが、指の動きは (c-g-e-g-c-g) となり、運指は (5-1-3-1-5-1) となるため、それまでのパターンと変化する。したがってこの部分でつまずくケースが多かった。また、47 番においても各小節の冒頭部分は、(c-c-f-d-c-e-b-c) と進行するが、この冒頭の音を読み間違えたのは、(x-g-g) のパターンを理解していないことに起因すると考えられる。

② 左右の運指の協応動作

これは、左右で音符の長さが違う場合の打鍵に問題がある場合と、休符のある部分の打鍵に問題がある場合に分けられる。

前者の場合は、例えば 7 番の 2 小節目や 42 番の 1 小節目のように、左手は 1 拍ずつ打鍵するのに対して、右手は 1 拍目、2 拍目が 2 分音符になっている場合に見られた。つまり裏拍を打つという感覚が養われていないのではないかと推測される。

後者の場合は、例えば 8 番の 1 小節目で左手は 1 拍ずつ打鍵するのに対して、右手は 4 拍目が休符で打鍵しないときに見られた。

一方、45 番のように上行音型と下降音型を同時に弾くことにつまづきを感じる場合も、左右の協応動作に問題があると考えられる

5 結論

以上、弾き歌いの場合と『大学ピアノ教本』の場合とで学生をつまづいた点を分析した。両方合わせての共通点として次の2点が考えられる。

まず、弾き歌いの場合で指摘された「①和音伴奏とメロディーのレガート」については、原因は左手の和音伴奏につられてのことと推測された。また、同様に弾き歌いで指摘された「②分散和音と付点リズムメロディー」は、例えば「かたつむり」の「でーんでんむーしむし」のように付点リズムが取れない場合でも同様である。これらは『大学ピアノ教本』において指摘された「②左右の運指の協応動作」における左右の指の動かし方に課題があることと共通する。

次に、『大学ピアノ教本』において指摘された「①音型のパターン認識」の問題は、弾き歌いにおいては特に問題はなかった。これはスリーコードで弾いたことにより、アルペジオ形のパターンが決まっていたためであると考えられる。『バイエル』ではアルペジオ形であったとしても、例えば G7 の音型の場合でも、d の代わりに f を用いたりするなど変則的な音型があり、その部分につまづく学生が多かった。

以上のことから、まず裏拍を打てるようにするリズム感覚の養成や、左右の協応動作を身につけるようなメソッドの開発、及び読譜力の向上とその際のパターン認識を促すような教材の開発がこれら諸問題の解決につながると考えられる。

6 成果と今後の課題

今回は弾き歌いは全 24 曲中の 12 曲、『バイエル』は 97 曲中の 47 曲を対象とした。その結果、ピアノ初心者がつまづきやすい曲の特徴と、技術上の問題点の一端を明らかにすることができた。しかしそれぞれ後半になるにつれて難易度が上がっていく。その場合にどのような部分でつまづくのか、またその原因は今回の成果と関連するののかについてさらに検討することが今後の課題である。

謝辞：譜例の楽譜を音楽ソフトで作成していただいた松井裕樹氏（本学非常勤講師）に深く感謝し、御礼申し上げます。

〔参考文献〕

- 市橋佳明・安田万里子（2017）「ピアノ実技に関する実態分析と指導の方向性」中部学院大学・中部学院大学短期大学部『教育実践研究』第3巻第1号、pp.55-66
- 初等科音楽教育研究会編（2011）『最新初等科音楽教育法〔改訂版〕』音楽之友社
- 大学音楽教育研究グループ（2018）『教職課程のための大学ピアノ教本 バイエルとツェルニーによる展開』教育芸術社
- 田中慈子（2017）「保育者・教員養成校におけるピアノ初学者への指導法」『京都光華女子大学短期大学部研究紀要』55号、pp.201-209
- 富田英也（1992）「ピアノ学習上の問題点とその考察」『白鷗女子短大論集』,16(2),pp.1-26
- 三木康子（2006）「『バイエル教則本』にみられる奏法指導の特徴」『音楽教育実践ジャーナル』vol.3 no.2、日本音楽教育学会、pp.104-109

表1 『大学ピアノ教本』1番から47番までの通過状況 (縦軸は練習番号、横軸は学生を示す)

No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	通過数B	通過率B
1		1	1		1	1	1	1	1		1	1		1	1	1	1	1	1	15	0.79
2		1	1		1		1	1	1		1	1	1	1	1	1		1	1	14	0.74
3	1	1	1			1	1	1	1	1	1	1		1	1	1	1			14	0.74
4	1	1	1	1		1	1	1	1					1		1		1		11	0.58
5	1	1	1	1			1	1	1	1				1		1		1	1	12	0.63
6	1	1	1	1			1	1	1				1	1			1			10	0.53
7	1	1	1	1			1	1	1		1		1	1		1	1	1	1	14	0.74
8	1		1	1			1	1	1											6	0.32
9	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		1		1	1	17	0.89
10	1	1	1	1			1	1	1	1	1	1	1	1		1	1	1	1	16	0.84
11	1	1	1				1	1	1	1	1	1	1	1		1	1	1	1	15	0.79
12	1	1	1	1			1	1	1		1	1	1	1	1					12	0.63
13	1	1	1	1	1		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		1	1	17	0.89
14	1	1	1				1	1	1		1	1	1			1		1	1	12	0.63
15	1	1	1			1	1		1	1		1		1		1		1	1	12	0.63
16	1	1	1			1	1	1	1	1		1		1		1	1	1	1	14	0.74
17	1	1					1	1	1	1		1	1		1	1		1	1	12	0.63
18	1	1		1					1	1				1		1	1	1		9	0.47
19	1	1	1					1	1	1	1			1		1	1	1		11	0.58
20	1	1		1		1		1	1	1	1		1					1		10	0.53
21	1	1	1	1			1	1	1	1	1	1		1	1	1	1	1	1	16	0.84
22	1	1	1	1			1		1				1				1	1	1	10	0.53
23	1	1		1			1	1	1	1	1		1	1	1	1		1	1	14	0.74
24	1		1			1		1	1	1	1	1	1	1		1	1	1	1	14	0.74
25	1	1		1		1		1			1			1		1	1	1	1	11	0.58
26	1					1		1	1		1			1		1	1	1	1	10	0.53
27	1		1	1			1	1	1	1	1	1	1	1		1		1		13	0.68
28	1	1	1	1			1	1	1		1	1		1		1		1	1	13	0.68
29	1	1	1	1		1			1			1		1				1		9	0.47
30	1		1	1	1			1			1			1		1		1	1	10	0.53
31		1	1			1	1	1	1		1			1	1	1	1	1		12	0.63
32	1	1		1	1	1	1	1	1		1	1		1	1	1	1	1	1	16	0.84
33	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		1	1	18	0.95
34	1	1		1	1	1	1	1	1		1			1	1	1	1	1	1	15	0.79
35	1						1						1	1		1	1	1	1	8	0.42
36	1	1		1			1	1			1	1		1	1	1	1	1		12	0.63
37	1	1		1		1	1	1	1		1			1	1	1	1	1	1	14	0.74
38	1	1		1			1	1	1		1				1	1	1	1	1	12	0.63
39	1						1	1	1	1	1		1			1			1	9	0.47
40		1	1	1		1		1	1		1				1			1	1	10	0.53
41				1				1			1	1		1		1	1	1		8	0.42
42			1					1						1		1				4	0.21
43	1	1																1	1	4	0.21
44	1	1	1			1					1			1		1	1	1	1	10	0.53
45	1			1										1				1	1	5	0.26
46	1	1		1	1					1	1					1			1	8	0.42
47	1						1	1		1		1						1	1	7	0.37
通過数A	41	36	29	29	9	18	32	38	36	20	32	22	18	36	16	37	23	40	33		
通過率A	0.87	0.77	0.62	0.62	0.19	0.38	0.68	0.81	0.77	0.43	0.68	0.47	0.38	0.77	0.34	0.79	0.49	0.85	0.70		